

県ミュージアム内の自然観察
ふじのくに地球環境史ミュージアム敷地内の野鳥

横山謙二



ふと気づくと、イソヒヨドリが窓から中をのぞいていました

ふじのくに地球環境史ミュージアムは、有度丘陵の南西端にあり、北から東にかけて森が分布しています。この森には、静岡南高校時代につくられた散策路があり、ちょっとした自然観察が楽しめます。私はNPO事務所が、このミュージアムに引越してから1年あまり、仕事前の朝早い時間や昼休みを利用して、しばしば敷地内でバードウォッチングや昆虫観察を楽しんでいます。ここでは、昨年から今年にかけての約1年間で見られた野鳥について報告します。

まず、1年を通しよく見かけるのがイソヒヨドリとハクセキレイです。中でもイソヒヨドリは、校舎のいたるところに出没します。時には2階にあるNPO事務所近くの窓からひょっこりと顔をのぞかせることもあるぐらいで、あまり人に対して警戒心がないようです。

ハクセキレイは、グラウンドや校舎裏手でよく見られました。他のセキレイの仲間では、キセキレイが、水はけの悪い校舎の裏手や中庭の池にいたこともありました。

また時折見かけるのが、アオサギです。アオサギは、中庭の池のフナをねらっていたのが、図書室あたりの屋上によくとまっていました。この中庭の池は狭く、周りが閉鎖的な空間になっていますが、カルガモが2羽いたこともあります。

NPO事務所近くの入口周辺では、よくノスリやトビ、ミサゴなどが上空を舞っているのが見られ、時には、散策路内の木の上にとまっていることもありました。



体育館近くで見られたアオゲラ

秋冬には、いろいろな野鳥が見られるようになり、特に体育館近くの散策路入口付近の木には、木実をもとめて多くの鳥が集まってきます。ここでは、アカゲラ、アオゲラ、コゲラ、ルリビタキ、エナガ、ジョウビタキなどがよく見られ、その近くのススキには、ホオジロがよく来ていました。また、体育館近くの上空では、ハイタカが飛び去って行くのが見られることもありました。

春先には、コシアカツバメが校舎の渡り廊下に巣をつくりに来ました。しかし、この巣が完成した頃に、可愛そうなことに、1羽のハシボソガラスが破壊してしまい、その後、コシアカツバメは巣を作り直さず、いつの間にか、いなくなっていました。

春夏には、ミュージアム敷地内ではありませんが、ミュージアムの近くの森で、6月頃から、よくサンコウチョウが見られました。そのうち、ミュージアム内でも観察されるかもしれません。また、昨年の夏から秋にかけて、ミュージアムの西側の田んぼが広がる場所では、ケリやタカブシギ、タシギ、トウネンなどが見られ、また今年初めには、その周辺にアマサギが3羽飛来し、しばらくの間、見る事ができました。

このようにミュージアム内やその周辺では、いろいろ野鳥が観察でき、ミュージアムに行くのが毎日楽しみです。引き続き、観察を続け、何か見つけましたら、また報告します。